

実践研究

スポーツにおけるインターネットの利用研究[†]

松 枝 禮*

Application Study of the Internet to the Sports Industry in Japan

Rei MATSUEDA*

Abstract

The internet, which was developed originally in the academic field among universities in U.S., is rapidly spreading to business and commercial fields. Application of Internet technology to the sports industry in Japan was investigated through establishing "Internet Tennis Japan" (<http://www.tennis-japan.com>), which is the first tennis site in Japan. It was found that the originality of the domain name, video clinic, mail exchange program, and displaying excellent foreign sites in Japanese was effective to attract visitors.

Key words : Internet, Tennis, Internet Tennis Japan, Domain Name, Video Clinic

1. はじめに

インターネットは、そもそも、米国の大学内のコンピュータ網が大学間で連携してできたネットワークで、当初は学問的分野に限られていたが、最近、急速に、ビジネスや商業分野に応用されるようになって来た。一方、我が国では、携帯電話の爆発的な普及に次いで、インターネットが注目されており、接続業ビジネスがブームになりつつある。しかし、実際のホームページの開設はそれに伴っていないのが現状で、1995年にYahooで検索した結果でも、日本のスポーツ関係のものはほとんどない状況であった。その理由としては、次の3つが考えられた。

1) インターネットは英語の世界であり、大多数の日本人には壁があり、日本語のものは

少なかった。

- 2) スポーツ関係のホームページには、スポーツの専門家やプロの知識を必要とする。
- 3) ホームページを開設するには、コンピュータを使いこなせる技術が必要。

この3点を念頭に入れ、日本のスポーツに、インターネットをどのように利用することが出来るかについて、実際に、1994年以来、テニスのホームページの立ち上げを通じて検討したので、その結果を報告する。

2. インターネットの特性の分析

新聞や雑誌やテレビは、出版社や放送局が不特定多数の読者や視聴者の受け手に、一方的に情報を流すメディアであるが、インターネットでは、ホームページの送り手と、その視聴者の

[†]原稿受付 1997年6月12日

*ウエルラケットクラブ

〒125 東京都葛飾区西水元6-4-1

* Well Racket Club, 6-4-1, Nishimizumoto, Katsushika, Tokyo, Japan (125)

受け手が、ネットワークやメールを使って、必要に応じて交流を図ることが出来るので、いわば、双方向のメディアと言うことが出来る。

また、テレビ局を立ち上げる場合とインターネットのホームページを立ち上げる場合を比較すると、前者では、特別な免許の取得と様々な法規制のクリアが必要であるばかりでなく、莫大な資本を要するが、インターネットの開設は、プロバイダーとの契約で、比較的容易に開設出来、小企業や個人でも開設することが可能である。そして、インターネットでは、資本や会社の規模が大きいからといって有利になる要素は少なく、ホームページの内容（コンテンツ）が決め手であり、大企業も小企業も個人も団体も、全く対等の世界と言える。

一方、情報の受け手側から見ると、テレビや新聞では、毎日の番組や情報を知る手段が確立しているのに対して、インターネットでは、ホームページの存在はもとよりその内容や日々の変化をあらかじめ知る手段に乏しい。キーワードやタイトルによる検索しかない現状であり、これとて、登録されているホームページに限られている。従って、うまく探し当て、実際にページを開けて見ないと何も判らないというのが実状である。言い換えると、インターネットの世界では、情報の洪水の中から、本当に必要で役に立つ情報を見つけ出す決め手がなく、これは、太平洋に浮かぶヨットを探し出すのに匹敵するほどの難作業である。しかし、一旦発信すると、太平洋が世界に通じている様に、発信地が何処であろうと、その国境を直ちに超えて、全世界に音声や映像を含めた情報を発信出来るというメリットが、インターネットにはある。

インターネットの特性をまとめると、次のようになる。

- 1) インターネットは、送り手と受け手が交流出来る双方向のメディアである。
- 2) インターネットは、大企業も小企業も個人も対等の世界であり、コンテンツが成否のカギを握っている。
- 3) インターネットには国境がなく、音声や映

像を含めた情報を、全世界に直ちに発信することが出来る。

- 4) インターネットでは、真に必要なホームページを見つけ出すことが出来るか否かが重要であるが、その手段は乏しい。

3. インターネットテニスジャパンを立ち上げるに当たっての基本方針と課題

日本のスポーツに、インターネットをどのように利用できるかについての研究は、1994年にスタートしたが、1995年当時にYahooで検索しても、日本のスポーツ関連のホームページは、新聞社のホームページのスポーツ欄ぐらいしか無い状況であった。そこで、筆者が専門とするテニスで、日本人に受け入れられ易いホームページを立ち上げることとし、その過程で、実際の問題を検討することとした。検討した方針と課題は、次の通りである。

- 1) 受け手がホームページを探し易くするには、どんな工夫が出来るか。
- 2) 新聞や雑誌やテレビと比較して、インターネットの優位性が出せる企画を立てる。
- 3) オリジナルなコンテンツにして、魅力あるものにする。
- 4) 双方向のインターネットの特性を生かした画面作りは出来ないか。
- 5) 無料で誰でも参加出来るホームページであると同時に、テニスへの興味やテニスの底辺の拡大に役に立つような、社会的に意味のあるものとする。
- 6) 海外の興味あるページの日本語版も用意して、日本人に親しみ易いものにする。

4. 検 討 結 果

4. 1 ドメインネーム取得の検討

作ったホームページを告知する方法としては、Yahooを始めとする検索エンジンに登録する方法しかない現状である。受け手がかつてページを見つけ易くするにはどうしたらいいかという観点で考えると、ドメインネームの活用が考えられる。ホームページの内容をドメインネーム

で表現する方法である。

ホームページを開く場合、プロバイダーの傘下でホームページを開くのが一般的で、例えば、テニスだと、<http://www.abcnet.or.jp/tennis> でページが開くことになる。そして、この場合のドメインネームの abcnet は、テニスとは全く無関係であり、これがテニスのホームページであると認識することは不可能である。しかし、その代わりに、ドメインネームを tennis.co.jp と出来れば、ホームページは <http://www.tennis.co.jp> で簡単に開くことが出来るだけでなく、検索エンジンによらなくても、誰でも、このページがテニス関連であることが判るだけでなく、容易にアドレスを記憶できるので、大きなメリットになると考えられる。そこで、ドメインネームの取得について検討した。

日本で tennis.co.jp のドメインネームを取得しようとすると、1995年当時、プロバイダーと専用線の契約を結ばないと、ドメインネームを管理している JPNIC に登録申請が出来ず、専用線の契約を結ぶには、40—60万円/月、最低500万円/年は必要であることが判った。そこで、インターネットの先進国の米国について調査した所、その約1/10の経費でドメインネームの取得と維持が出来ることが判った。そこで、米国のサーバーを使って立ち上げることし、tennis.com が登録済みであることから、結局、tennis-japan.com のドメインネームを取得して、ホームページを開設することにした。ホームページを立ち上げる場合、米国のサーバーでは、ドメインネームに com が、また、日本のサーバーでは co. が付くだけの違いで、根本的な違いは全くない。最近では、日本のプロバイダーのベッコウアメの様に米国のサーバーも扱う業者もあり、グローバルオンラインやデジタルビルディング等の米国系のプロバイダーも営業している。

4. 2 ジュニアコンピュータランキング

新聞や雑誌は、詳しい正確なニュースや情報を伝えることが出来る反面、一過性で、それが出た時点の近辺でしか機能しないし、本は、変

ランキング表の選択

男女10歳以下・シングルス&ダブルス
男女12歳以下・シングルス&ダブルス
男女14歳以下・シングルス&ダブルス
男女16歳以下・シングルス&ダブルス
男女18歳以下・ダブルス
男女18歳以下・シングルス

図1 ジュニアコンピュータランキングの例

化する情報には向かない。また、テレビは、刻々変わるニュースや情報を、映像で生々しく伝えることが出来る反面、その瞬時でその機能は終わってしまう。一方、インターネットは、文字、音声、映像でニュースや情報を伝える事が出来るが、それは、テレビのような生々しい映像には欠ける反面、新聞や雑誌と違って、年間を通じて掲載でき、何時でも必要な情報を取り出す事が出来る。インターネットは、いわば、テレビと新聞や雑誌の中間に位置するメディアと言うことが出来、ニュース性と保存性が必要な分野でその特性が発揮出来ると考えられる。

そこで、筆者がリーダーとして、約15年前に立ち上げた、関東テニス協会ジュニアコンピュータランキング¹²⁾を取り上げた。このランキングは、子供たちのテニスの公認試合の結果をポイント化してランキングに反映させるもので、当初は、雑誌や新聞で掲載されたこともあったが、最近では、15,000人余りの数になったこともあり、協会といくつかのテニスショップでしか閲覧する事ができない。関東テニス協会の協力を得て種々検討した結果、図1に示すようなランキング一覧表と名前や登録番号で自分のランキングが検索出来るようにすることが出来た。インターネット上で、このような検索システムを機能させるには、1995年当時の国内では難しかった cgi (common gateway interface) 対応のサーバーが必要であり、ユーザーの独立性を尊

重なる米国のサーバーのメリットでもあった。

4. 3 ビデオクリニック

日本テニス協会の普及委員や強化委員として、地方に出かけることの多かった時代から、指導者に恵まれない子供たちの指導が、大きな課題

であった。その時に考え付いたのが、ビデオを通じて、

ビデオと相談事の送付→診断→矯正法やトレーニングの処方→ビデオの再送付のサイクルによる指導である。

第5回サービス

身体のバランスとスナップの利かせ方を矯正する

東京の多摩でテニスをなさっている岩田さんから「ダブルフォルトの多いサービスをなんとかしたい」という相談を受けました。ビデオを見ると、彼の悩みの原因は他の多くの一般プレーヤーにも見受けられるものなので、取り上げることにしました。



東京都多摩市在住
J.I.さん テニス歴5年

悩んでいるショット名
サービス

クリニックしてもらいたい点
大事な場面でダブルフォルトが多いのでなんとかしたい



杉山 愛プロ

・ビデオを見る・

さっそくフラットサービスを打っているJ.I.さんのビデオを見てみましょう。ラケットをいったん肩の高さに上げて動作を停止しています。そのあと、サービスの動作に入り、ボールを打っていることがわかります。

第1に気になるのは、ラケットをボールに当てるときのフォームです。次ページの2枚の写真をご覧ください。ラケットがボールをとらえている点からコートに垂直に下ろした線と、頭からコートに垂直に下ろした線とを比較すると、ボールの打点の位置より、頭がかなり前方にあることが一目瞭然です。また、身体は今にも地面に倒れ込んでしまうほどで、これが倒れないように支える足には、相当な力を要していることがわかります。



次ページ

一流プレーヤーとのフォームの比較や指摘は、ゴルフでもやられているが、各個人個人で異なる要求や悩みにたいして、どうすれば解決し、上達することが出来るかという処方がないと、実際の上達は難しい。この処方まで出すのがこの指導法の特徴であり、予想以上の効果が得られたので、「ビデオクリニック」と名付けて実施しており、テニス誌の「スマッシュ」でも、読者を対象としたクリニックを連載している。このビデオクリニックをインターネット上でい、雑誌の静止画の代わりに動画で表現出来ると、実際の動きで理解出来るだけでなく、雑誌と違って何時でも引き出せるメリットがあるので、検討することとした。現在の日本のインフラの環境下でのインターネットで、動画をいかに表現するかに苦労はあったが、アニメーションの手法を用いれば、ビデオ並とは行かないまでも、フォームの分析が充分出来るまでに動画で表現出来ることが判った。杉山愛選手の全面的な協力もあって、図2の様に、杉山選手との比較画像を載せており、判り易いと好評である。このビデオクリニックは、筆者のオリジナルであるが、ビデオ撮影さえ出来れば、ビデオを観て診断し、上達とトレーニングの処方を出せるだけのノウハウを持つ指導者と生徒が、家庭用のビデオを介して容易に実施することができる。今回は、雑誌の内容をインターネットで表現したわけであるが、ビデオクリニックは、テニスだけでなく、他のスポーツや技芸や教育等、色々な分野への応用が可能であり、インターネットに適したものと言える。

4.4 杉山愛選手とファンの交流ページ

外国のテニスのスーパースターのファンクラブのホームページにもファンからのEメールページはあるが、これは一方通行であり、スターが返信する例はほとんど見られない。インターネットの双方向のメディアの特性を使って、スターとファンが交信出来れば、ファンとスターの距離が縮むと同時に、テニスへの興味の増大と底辺の拡大につながると考え、杉山愛選手

の強力を得て、「愛とファンの交流ページ」を企画した。これは、図3のように、Eメールを利用して、ファンと杉山愛選手が交流を図るので、大変な反響があった。特に、スター選手が返信や近況報告をする点が新しく、スターとファンが交流出来た、世界的にも珍しい例となった。杉山愛選手にとっても、いい励ましになっており、結果的に、彼女のファンクラブの結成がスムーズにできた点でも成果があった。杉山愛選手のページは、英語版も作成中である。

4.5 車いすテニスやフォーラムのページ

車いすの人には2バウンドが許される以外は、全て同じルールで、車いすの人同士だけでなく健常者とも同じコートで対等にプレー出来るのが、車いすテニスであるが、日本での歴史は浅い。1981年に、世界的に著名なティーチングプロであり、筆者の親友でもあるピーター パーウオッシュ氏が来日した時、3人の車いすの人に教えたのが最初で、それ以来、筆者も、車いすの人の指導や大会の運営に関わって来た経緯がある。現在では、全国的に普及して来て、大会も充実して来ているが、佐藤直子、伊達公子、坂口恵美子、溝口美貴、雫子牟田明子、平井健一プロ達が、ボランティアとして大会の運営に協力していることは、あまり知られていない。車いすテニスの普及とボランティアの呼びかけの意味も込めて、「車いすテニス」のページを開設した。誰でも参加出来る、図4のような「フォーラム」ページや「レイティング」のページも、社会的なテニスの支援と位置づけている。

4.6 海外のホームページの日本語での紹介

海外の優良ホームページを日本語で見られるようにすれば、日本人にとって、もっとインターネットが身近なものになると考えられる。そこで、海外と交渉して提携し、「シュテフィグラフのファンクラブ」や「アンドレアガシのファンクラブ」、そして、海外のテニス関係の優良サイトを紹介する「テニスのベストサイト」等を日本語で開設した。

愛とファンの交流ページ

杉山愛選手とファンの皆様が、インターネット上で交流出来るページです。

杉山愛選手が、試合や練習の合間を見つけては、直接、画面上で答えてくれますし、ツアーでの面白いニュースも届けてくれる予定です。

皆様の激励や身近なニュース等を、Eメールで aifan@po.teleway.or.jpまで、お送り下さい。



Ai

皆さんこんにちは。いかがお過ごしですか？ 私はとくにダイエットをしているわけではないのですが、体重が少しずつ減り、とてもいい感じです。ダイエットをしているときは減らず、気にしなくなったら減り始めるなんて、おかしいものですね！? 一体どうなっているのでしょうか？ そう、お年頃というのでしょうか。17~18歳にかけて、ばんばんに太り、20歳頃からだんだんスリムになっていきます。そして誰でも人生のもっとも輝かしい時期を迎えるのです、と聞いています。

今、ちょっと気になっていることがあります。ボランティアについてです。テニスの大会はたくさんのボランティアの方々に支えられています。それはリタイアされた方であったり、ボランティア休日を取って働いている方だったりいろいろですが、そういう人たちと接すると、ボランティアとはどういうものだろう？ と考える機会が与えられるのです。

今回のアメリカ遠征でも、ボランティアでトランスポーター・サービス（専用車による送迎サービス）をしている人が、「自分はこれを、やりたいからやっているんだよ」と言っていました。ボランティアは、時間とやってあげたいという気持ちではなくてはできるものではありません。アメリカでの大会ではいつも、本当にたくさんの方がボランティアで働いています。そういう人たちに対する感謝の気持ちも忘れてはいけません、と思います。

話は少し変わりますが、私の母も時間を見つけて、老人ホームのお手伝いに行ったりしています。そして私はお手伝いから帰ってくる母から、貴重な話を聞きました。「始まる前はやってあげようという気持ちなのに、終わってみるとやらせてもらったという感じになるのよね」と言うのです。お手伝いした後に、何とも言えぬ充実感と満足感があるというのです。なるほどなと思いました。人は誰でも人の役に立ちたい、人のために働きたいと思うものです。思っているも、行動を起こすということは動機づけがあるわけですが、それを見つけるにはその人がどう本を読んでいるとか、どういう人と話しているかが重要になってくると思います。そういった意味でもふだん、たくさんの人と話をしたり、良い本をたくさん読んでいきたいと思っています。

ふだん仕事をするのは、お金を稼ぐという目的があるからですが、ボランティアは見返りを考えずに働くということですが、ボランティア活動をするということによって、お金では得ることのできない何かを、心の中に得ることができるような気がします。私も、自分のできる小さなことからひとつずつ始めていきたいと思っています。

LOVE、愛



Fan

広告代理店のものです。世界ランクベスト10めざしてぜひ頑張ってください。最近テニス人気もやや下降気味で愛さんの活躍にかかっています。われわれの仕事にも大きく関わってくるので本当に頑張ってください。

From: 25歳男 ms@yomiko.co.jp

図3 杉山愛選手とファンの交流ページ

Internet Tennis Forum

このページは、テニスに関する疑問、質問、情報等をメールで頂き、掲載していくページです。疑問、質問等への回答もお待ちしてます、皆さまからのメールお待ちしております。このページへのメールは、Forum@tennis-japan.comへお送り下さい。

Mail

はじめまして。
テニスが好きで中学のころからやっており、社会人になった今は、テニススクールに通い1回かよっていますが、最近、車いすテニスのことを知り、車いすの人たちといっしょにテニスをやりたいと思っています。教えるほどまでは、うまくはないのですがどこに問い合わせればいいのか、どなたか教えていただけませんか
rum@ibm.net

Re: rumさんが、どちらにお住いか分からないため回答しにくいので、この範囲の地域で探していると書いた質問にしていただけると助かるのですが。
インターネットテニスジャパン

図4 フォーラムページ

5. 成果と分析

「インターネットテニスジャパン」の現時点でのコンテンツは、図5のように、車いすテニス、日本テニス学会、関東テニス協会、北信越テニス協会、ビデオクリニック、杉山愛ファンクラブ、アガシのファンクラブ、グラフのファンクラブ、インターネットテニスフォーラム、レイティング、関東学生庭球同好会連盟、良品広告、ベストテニスサイト、ピーターバーウォッシュインターナショナルである。そして、日本におけるテニスの最初のホームページであったことが大きいかもしれないが、開設1年余りで、ホームページの評価の目安とされている1万件/月のアクセス数を突破し、スポンサーの獲得にも成功している。

5.1 アクセス状況の分析

本ホームページの曜日別アクセス数を分析したのが表1であるが、各曜日共あまり差が無く

一定しており、かえって週末の方がやや少ない傾向が見られたのは意外であった。

また、時間別のアクセス状況を分析した結果が表2である。昼間よりも、夜間や早朝のアクセスが多い結果が得られた。20時に突出するのは、プロバイダーの割引料金のためと考えられる。

5.2 本ホームページの反響

インターネットのサーチエンジンや多数のリンク依頼は別にして、本ホームページが、1年余りの期間に、インターネット以外のメディアに取り上げられた件数は10件で、その内容は、表3の通りである。この内でも、インターネットを扱った番組である、NHKの「TVインターネット」で、スポーツ界の代表的なインターネットの1つとして取り上げられたことは、公的機関の評価という点で、大きな成果であった。

Internet Tennis Japan

インターネットテニスジャパン

All rights are reserved by Internet Tennis Japan

キーワードは「テニス」、誰でも参加できるホームページです。
テニス仲間に伝えたい、とっておきの情報をどんどん
webmaster@tennis-japan.comまでお寄せください。

車いすテニス

関東テニス協会

日本テニス学会

ビデオクリニック

杉山愛ファンクラブ

アガシのファンクラブ

グラフのファンクラブ

北信越テニス協会

関東学生庭球同好会連盟

インターネット
テニスフォーラム

レイティング

良品広告

ベストテニスサイト

ピーター パーウオッシュ
インターナショナル
(PBI)

お知らせ

杉山愛プロ、ジャパンオープン 優勝記念 特別プレゼント!!

ベストテニスサイトページを新設

PBI (ピーター パーウオッシュ インターナショナル) のページを新設

杉山 愛 ツアー初優勝



ビデオクリニックが、NHK BS1の番組、TVインターネットで紹介されました。

シュテフィ 最新情報



車いすテニス大会(チャレンジ・カップ・イン・有明)に伊達公子プロが参加



図5 インターネットテニスジャパンの表紙

表1 曜日別アクセス数の分析結果

Each unit (■) represents 150 requests for pages, or part thereof.

曜日: pages:

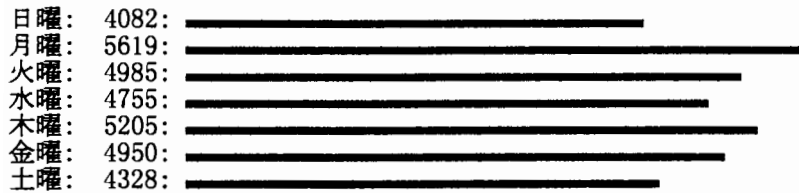


表2 時間別アクセス数の分析結果

Each unit (■) represents 80 requests for pages, or part thereof.

時: pages:

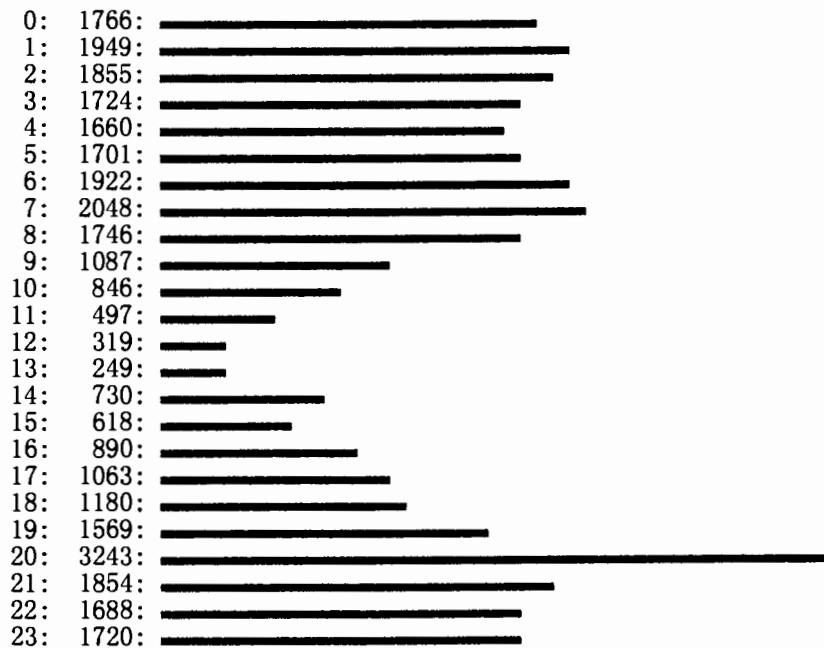


表3 インターネットテニスジャパンがインターネット以外のメディアに取り上げられた例

1. 雑誌「あちゃら」, (株)リクルート, No.4, pp.76 (1996).
2. 報知新聞, 1996年9月18日.
3. ムック「スポーツサイト大図鑑」, (株)ベースボールマガジン社, pp.113 (1996).
4. 雑誌「スマッシュ」, (株)スポーツ企画出版社, No.11, pp.110 (1996).
5. 雑誌「スマッシュ」, (株)スポーツ企画出版社, No.12, pp.119 (1996).
6. NHK テレビ「TV インターネット」, 1997年2月23日.
7. 雑誌「YOMIURI PC」, 読売新聞社, No.5, pp.117 (1997).
8. 雑誌「インターネット雑技団」, (株)バウハウス, Vol. 3, pp.92 (1997).
9. 雑誌「J.D.Press」, (株)ジェイデータ, Vol. 7, pp.34 (1997).
10. 雑誌「あちゃら」, (株)リクルート, No. 7, CD (1997).

6. 結 論

インターネットの進歩はめまぐるしく進んでおり、筆者が作業を始めた2年前と比べると、ソフトの進歩や価格破壊が格段に進み、ホームページを容易に出せる環境は整って来つつあるし、スポーツ関係のページもどんどん増えており、1997年7月現在、Yahoo Japanの[趣味とスポーツ]の検索で100以上検索されるようになった。しかし、団体や個人のニュースやリンク集のものがほとんどで、未だ、手探りの状況であり、独自のドメインネームを持つホームページは極めて少ない。そのホームページが成功するか否かは、多数の人にアクセスしてもらえるか否かにかかっており、さもないと、ただ開設しただけの自己満足に終わってしまうことになる。

「インターネットテニスジャパン」の開設実験とアクセス内容の分析から言えることは、ドメインネーム、ビデオクリニック、ファンとの交流ページ等のオリジナルの企画と情報発信、

そして外国の優良サイトの日本語での紹介が、アクセスの増加に有効であったということである。スポーツにインターネットを利用するに当たっては、映像や双方向性といったインターネットの特性を活用した企画とオリジナルな情報の発信が重要であると考えられる。

7. 謝 辞

資料の提供と御協力を頂いた日本テニス学会、車いすテニス協会、関東テニス協会、北信越テニス協会、関東学生庭球同好会連盟の諸団体、データや映像処理で御協力頂いた斎藤彰夫氏と半谷稔氏、また、日本高速通信株式会社に、深く感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 松枝禮：ジュニアトーナメント開催者のためのテニスハンドブック、関東テニス協会(1983)。
- 2) 松枝禮：ジュニアプレーヤーのテニスハンドブック、関東テニス協会(1983)。